

まえがき

長い歴史と伝統の中に数々の文明を築きあげてきた銅は、今日も私たちの身近かな金属として多岐多彩に利用され、優れた工業材料として産業の発展に広く貢献しております。

しかし、戦後のわが国では銅に対する一般の認識が低下し、特に緑青については今なお猛毒であるかの如き通念が浸透しております。

日本銅センターでは、この銅に対する毒性の有無を正しく解明するために、東京大学医学部の豊川行平教授に研究を委託し、三年有余に亘る長期動物実験を実施し、科学的な研究の結論を出していただきました。更にこの研究をもとに科学映画、生命と銅（文部省選定）を企画製作し広く一般に公開しました。また、昨年4月に豊川教授の研究報告講演と科学的な視野から見た欧米諸国の考え方をまとめた資料を中心に編集した小冊子「銅の衛生学的研究」を発行いたしました。この冊子はすでに全国の公共機関をはじめ全国の大学や図書館、医療機関、新聞等の報道機関など関係業界の団体等に広く寄贈いたしましたが、これに依って、銅および緑青に対する通念の是正に大きく寄与するものと信じております。

今回はその続編として、特に専門家向けの学術的な疑問に答えるため、東京大学医学部の豊川行平教授の研究報告を中心に、学術的な研究レポート数編を集録し、「続・銅の衛生学的研究」を刊行することにしました。この小冊子は、先に発刊しました「銅の衛生学的研究」と共に、私達の日常生活の中で銅および銅合金は健康を害する心配はなく、寧ろ私達人類をはじめ動植物が生存してゆくためには欠くことのできない働きをしていることを詳しく紹介し、医学的に銅を正しく解明しております。

終りにこの小冊子が少しでも多くの人達に愛読していただき、銅並びに緑青について正しく認識し、銅の衛生学的知識の普及に役立つことを祈念して止みません。

昭和45年1月

社団法人 日本銅センター

専務理事 和田 忠 朝

●目次

まえがき

| | | |
|-----------------------------|------------------------|----|
| 銅の衛生学的研究 | 東京大学医学部教授 豊川 行平 | 1 |
| 生命の糧—銅 (C I D E C シンポジウムより) | | 26 |
| 銅の忍限度に関する研究 | 東京大学医学部教授 羽里武左衛門 | 51 |
| 水道用銅管の腐食について | 住友軽金属工業(株)研究部 田中 礼次 | 65 |
| 東京市衛生試験所学術報告書より抜粋 | | 77 |

- 銅塩類が動植物の発育に及ぼす影響(一)~(二)…………… 有本邦太郎 他
- 硫酸銅使用による濾池内棲息微生物の駆除に関する調査…………… 岩崎 富久 他
- 硫酸銅及び有効塩素の影響による生物の死限界について…………… 酒井 樸 他
- 湯沸器の銅管により溶出する微量の銅について…………… 梶村 工 他
- 水質と銅管との溶解度の関係から見た、銅管の規格並び
に可検水質に対する銅管使用の適否の判定について…………… 相沢 金吾 他